

私は長崎医療センターでの初期臨床研修終了後に救命救急センターに後期研修医として3年間在籍し計5年間を同院にて過ごしました。救命救急センター在籍中は救急外来、ICUでの集中治療、ドクターヘリ・医師同乗救急車といったプレホスピタル、DMAT取得による災害医療など多彩な業務に関わらせて頂きました。病院前・救急外来・集中治療室と全てのフェーズにおいて救命センタースタッフにより患者管理がされているため、刻一刻と変化していく患者状態を間近で感じ、救急医に必要とされる重症度や緊急度を早期に予測する嗅覚を身に付けることができたのではないかと考えています。救命センター指導医の方々には後期研修医が自分自身で考え治療方針を決定するプロセスを重視していただき、慣れない手技に関しても積極的にトライできる環境をつくってくださったため、後期研修医がたとえ重症患者においても治療を前に押し進めていく「意思決定能力」と「度胸」が身に付いていく環境が整っていました。また、救急医療は各診療科との連携が不可欠ですが、各科の先生方がコンサルテーションに迅速に応じて頂ける恵まれた環境であることも特筆すべき当院救命救急センターの特徴だと思います。

私は現在5年間過ごした長崎医療センターを離れ母校の久留米大学病院で感染症診療にあたっています。診療科・臓器・年齢などを問わない患者の全体把握は救急医療に通ずるところがあり、長崎医療センターでの経験なく今の仕事は成り立ちません。

今後は救急医×感染症医としてどのような医師のキャリア形成を示せるかが自分自身へ課された命題であると考えています。

最後になりましたが、5年間長崎医療センターで私を育ててくださった方々に心より感謝いたします。本当にありがとうございました。